令和４年度
北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO.　８【号】

事前の準備と期待する結果と

附属函館幼稚園園長　外崎紅馬

勝負は１回きりで、しかもあっという間の出来事である。先月の園だよりに、私が小中学校時代に陸上をやっていたと書いたところ、保護者の方から「種目は何をやっていたんですか？」と尋ねられた。私は長距離が嫌いだったので短距離をやっていた。放課後の部活や夏休み等の長期の休みも練習に勤しみ膨大な練習時間をかけるが、挑む本番の大会での勝負は１回きりであり、しかも種目が短距離のため数十秒、一瞬で終わる。

先月、教育大学の学生が教育実習に来ていた。実習中、学生は「研究授業」という課題があり、自分で考えた保育を実施する。研究授業は１回きりで時間は 30 分であるが、学生がその授業の準備のためにかける時間は 30 分ではすまない。それこそ膨大な時間をかけて本番に臨んでいる。ただ、実施する遊びの内容を説明する際、学生は一度にたくさんの事を指示しがちなため園児が理解できず、意図した結果にならないことも多い。

そんな時、ある実習生がハサミを用いた製作の研究授業を行った。園児にハサミを持たせるため、その使用方法には注意が必要である。実習生はハサミの使い方に関する注意点をひとつにつき１枚の画用紙にまとめ、事前に準備した何枚かの画用紙を園児に示しながら、簡潔に注意点を伝えた。園児は実習生の説明を目で見、耳で聞き、理解したことを返事で伝えた。

しかし、園児は夢中になると理解したことを忘れがちである。その時もやはり園児の一人がハサミをケースに入れるのを忘れそのまま机の上に置きっぱなしにした。それに気づいたある園児が、先ほど実習生が注意点の説明に使用した画用紙が置いてあるテーブルの所に行き、目当ての注意点の画用紙を見つけ、それを持って友達に見せに行った。

事前に示された教材を園児がきちんと認識し、その内容を間違いなく理解し、正しい行動のために園児自らが活用する。確かな成長を確認できる貴重な場面であった。